

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 11月5日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3671700270
法人名	医療法人 中西内科クリニック
事業所名	グループホーム 山川
所在地	徳島県吉野川市山川町川東80番地 (電話) 0883-42-7038
評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成19年 11月 1日

## 【情報提供票より】(平成19年10月10日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成16年 1月 15日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤	6人, 非常勤 1人, 常勤換算 6.2人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建ての	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	実費
敷金	有( 円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 833 円		

### (4) 利用者の概要(10月10日現在)

利用者人数	9 名	男性	5 名	女性	4 名
要介護1	0 名	要介護2	5 名		
要介護3	1 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 75.8 歳	最低	64 歳	最高	96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	中西内科クリニック
---------	-----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は、高越山のふもとに位置し、夏は吹き降ろす快適な風、清流川田川と自然に富んだ環境に恵まれた中で、季節や天候、利用者の体調に考慮しながら外出支援(散歩等)をしている。出会う地域住民の方との挨拶や会話等で交流を図り、地域に根つき支えあふ事業所となるよう実践されている。隣接する母体医療機関は24時間対応体制で、個々に応じた健康管理を行い利用者家族が安心して過ごせるよう支援がされている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での改善について、管理者全職員で話し合い、要改善シートを作り、全ての項目で改善が図られていた。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員で話し合い、各々の意見を出し合って自己評価に取り組んでいる。今回の自己評価で明らかになった改善点についても計画を立て改善に取り組まれている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は市内の関連事業所の3カ所のグループホームが合同で開催されている。今年度は2回の開催のみである。質疑や意見交換、要望等を聞くのみとなっている。外部評価の結果等についての報告までには至っていない。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>玄関に意見箱の設置がされており、家族等が意見、不満、苦情を気軽に言える体制が取られている。担当者を配置し面会時や電話等で繰返し伝えられている。利用者の暮らしぶりや健康状態等、月1回の手紙で写真を添付して報告されている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>事業所は地域との交流について意識的に取り組み、地域や学校行事等に参加している。散歩や外出時には挨拶をしたり話しかけたりと意欲的に交流に取り組まれているが、地元の方の訪問者は少ない。隣接するケアハウスやグループホームとの交流は図られている。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

（   部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの事業所独自の理念をつくり、家庭的な環境と地域住民の交流を図る支援がなされていた。	<input type="checkbox"/>	
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員が理念について話し合い、理念を共有し、実践に向け日常的に取り組まれている。	<input type="checkbox"/>	
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は地域の行事等(祭り、阿波踊り、運動会)に参加し、地元の人々と交流する事に努めているが、自治会等への加入はされておらず、地元の方の訪問や交流は少ない。	<input type="checkbox"/>	地域の自治会等へ加入し、地域の一員として活動に参加したり、地元の人々と交流することに努められたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は自己評価や外部評価の意義を理解し、全員で取り組み、改善に向けて計画を立て取り組まれている。	<input type="checkbox"/>	
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は市内にある関連事業所の3カ所のグループホームが合同で開催されている。質問や意見、要望等は受けられているが外部評価結果の報告までには至っていない。今年度は2回の開催となっている。行政職員及び地域包括支援センター職員の参加がされていない。	<input type="checkbox"/>	今後、2ヶ月に1回開催されたい。また、行政職員及び地域包括支援センター職員の参加が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者は運営推進会議にも参加がなく、毎月1回ホームからの利用状況をFAXで送信するのみである。	○	お互いに行き来する機会をつくり、市町村担当者に事業所の実情等を伝え、サービスの質の向上に取り組まれたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態等を毎月1回の手紙に写真を添付して報告している。金銭出納帳には領収書が添付されているが、家族の確認サイン、印等がされていない。	○	金銭出納帳に家族の確認サイン等されることが望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等が意見、不満、苦情を気軽に言えるように面会時や電話時等機会をとらえて説明し、管理者、職員、公的機関の窓口を明確にしている。また、意見箱等の設置もされていた。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者、職員の異動や離職の際には引継ぎ期間を設け、利用者へのダメージを最小限に押さえる努力がされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内研修を月1回定期的に行われている。外部研修受講職員は内容報告を行い情報の共有を図る等されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国グループホーム協会に加入しており、配信される情報誌等を活用している。日々のサービスや職員育成に役立つ事例等も検討し、サービスの質の向上に取り組まれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心して利用して頂けるよう、家族等と相談しながら体験入所や見学等、職員や他の利用者、ホームの雰囲気に徐々に馴染めるよう工夫されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「みんなで一緒に支え合う」の理念のもと、職員は利用者に学び喜怒哀楽を共にし、寄り添い、利用者からいたわってもらったり、励まされたりとアットホームな関係が築かれている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望や意向など、利用者の言葉にしづらい思いを日々の行動や表情からくみ取り把握し、困難な場合は家族とも相談し本人本意に検討されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族、担当医、職員等で話し合い、気づきや要望、意見等が反映された介護計画の作成がされている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じた見直しと、利用者全員のモニタリング結果や状態等の変化が生じた場合、本人、家族関係者と話し合い、現状や意向にそった見直しがされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて通院時の送迎等必要な支援は柔軟に対応されている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体医療機関による24時間対応の医療体制があるが、家族と相談し、納得が得られたかかりつけ医に受診できるよう支援されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のあり方について、事業所が対応し得るケア、利用者、家族の希望等、関係者等が方針や支援の具体的な内容等について話し合い共有がされている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳を大切にした言葉かけやトーンに配慮し、プライドを傷つけないように、さりげない介助を心がけている。また、職員は個人情報保護法の理解に努め秘密保持が図られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの基本的スケジュールはあるが、利用者個々のペースに合わせた暮らしを支援されている。家庭で過ごした習慣や希望にそって支援されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の持っている能力や残存機能を活かしながら、利用者、職員と一緒に食事の準備、配膳、片づけまで行っている。また職員は介助する一方にならず一緒に食事もされていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	健康状態に問題なければ、毎日希望に応じていつでも入浴可能な体制が整っている。入浴を拒む人に対してもチームプレイで個々に合わせた支援がされている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の片づけの後、利用者の奏でるギターの音がし、音楽会がおこなわれていた。その後は紙芝居が行われ生活歴や芸を活かした楽しみや気晴らしの支援が利用者主導でされていた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や季節、利用者の体調を考慮し、希望者は毎日近隣までの散歩や食品、日用品の買い物等に参加している。歩行困難な方も車や車椅子で外出支援がされている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	今回の自己評価までは玄関の施錠がされていた。	○	鍵をかけることの弊害を再度理解され、常に玄関の開放ができるよう取り組んでいかれたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、訓練を実施している。月1回の防火設備の点検や利用者優先に避難できるよう、職員は常に考え業務にあたりマニュアル等の整備も各々にできている。消防署、駐在所との連携をとり協力体制が図られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の栄養士の管理下で、利用者個々に合わせて栄養バランス・水分量が把握されている。体調や運動量を考慮しながら介助の方法や食器の工夫、摂取量等も記録し支援されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間にソファやテーブル等が配置され、自由に安心した暮らしができるよう配慮されていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていたテレビや机、ぬいぐるみや置物、家族で撮った写真等、好みのものを置かれ、居心地よく過ごせるよう工夫されていた。		